SSN mail magazine——◎——★★——◎——2025/5/1（令和７年）
第１９９号　岡部進の「生活数学」情報通信
暮らしに役立つ・・・生活数学ネットワーク 便り

——◎——★——◎——★★——◎——★——◎——

★ 目次 ★

１．あいさつ
２．セッション及び講演案内
３．「なぜ」と問うことの中で（１２７）
　—小売価格（東京都区部）シリーズ 第 42 回魚介類⑥ぶり（鰤）　岡部　進
４．生活数学シリーズ本（別冊№1・2010.7.1 刊）
　「知的好奇心のヒント——数値文化を考える」から抜粋紹介
　——　７．算数と数学はどこが違うの？（当メールマガジン第７号掲載文）　岡部　進
５．著書及び新刊本紹介（**5 月 17 日刊行予定の新刊案内があります**）
６．今日のワンポイント「スマホ文化の行方」　岡部　進
７．編集後記

１．あいさつ ★

5 月になりました。3 日は「憲法記念日」、4 日は「みどりの日」、5 日は「子どもの日」と休日（祭日）が続きます。どの日も意義深い行動を余儀なくされそうでしょう。どんな日々になりますか。ちょっとかしこまっていますが、こんなことを考えました。

第一は、意識的に憲法の条文に触れたい。第二は「みどり」ですから自然の恵みへの感謝。第三は「こども」（少年少女）の未来を見つめたい。

私的なことになります——5 月になると毎年のように 70 数年前の新制中学校時代の社会科の先生の「憲法のはなし」の朗読を思い出す。終戦直後ですから平和一路の朗読は今も心の真ん中にどっしりです。憲法に触れたい。次は連休のどこかの一日を野菜作りとしたい。そして子供たちのための生活数学を考える一日としたい。筆者の連休対応です。皆さんの声をお待ちしています。

（５月１日：生活数学ネットワーク代表　岡部進）

２．セッション及び講演案内 ★

◎セッション　５月２７日（第 4 火）13:30～15:30（13:00 受付開始）
　生活数学セッション（第 170 回）　於：いつもの会議室
　「知的好奇心のヒント～生活数学のすすめ—その 28」
※申込みは、最後にあるフォーマットをご利用下さい。
※仔細は別途セッション案内に掲載。（約 1 週間前に案内中）
※詳しくはホームページをご覧ください。

◎フィリピンから輸入する農水産物の４回目で「ココやしの実乾燥」でした。年次別推移の図表には、大地震の結果だろうという数値が読めたり、数量も金

額も興味深いものでした。

前回に続き、パソコンとモニターの接続不具合がありましたが、講師が毎回用意する詳細な資料があるので、慌てることなく進行できました。メルマガも今月号で 199 回目、セッションも先月開催で通算 170 回、皆様のご支援ご鞭撻のお陰で長く続けてこれた事に感謝でいっぱいです。

３．「なぜ」と問うことの中で（１２７）　★――・・・・・・・

【小売価格（東京都区部）シリーズ―第４２回ぶり（鰤）】

岡部進（元日本大学教授）

１　寒ぶり（鰤）に出合いましたか？

「ぶり」（以下、鰤）は真冬の大型青魚でしょう。身が締まっていて、噛（か）むと歯ごたえがあって、マグロと異なってややプリプリがポイントでしょう。刺身にも鮨ネタにも似合って文句無し。醤油を使っての照り焼きも後を引くでしょう。

2025 年（令和 7 年）の真冬の 2 月、富山湾で水揚げされた寒ブリが豊洲魚介類市場に届いたというニューが流れ、都内のあちこちの寿司店で客に提供されたらしい。多分、客は「鰤ネタ」の寿司に出合って満足したことでしょう。

一方で同時に珍しいニュース。寒ブリが北海道漁場で大量に水揚げされたという。けれども道民は食べるのに不慣れで戸惑っているという。気候変動で海流が通常のコースを外れたのかもしれないという。

では質問――鰤も烏賊（いか）や蛸（たこ）のように小売価格は上昇しているのでしょうか、気になりますね。

この回答はすぐです。

２　鰤の小売価格（円/100g）の年次別推移（東京都区部）

では、鰤の小売価格の半世紀を振り返って見ましょう。これは図 1 です。

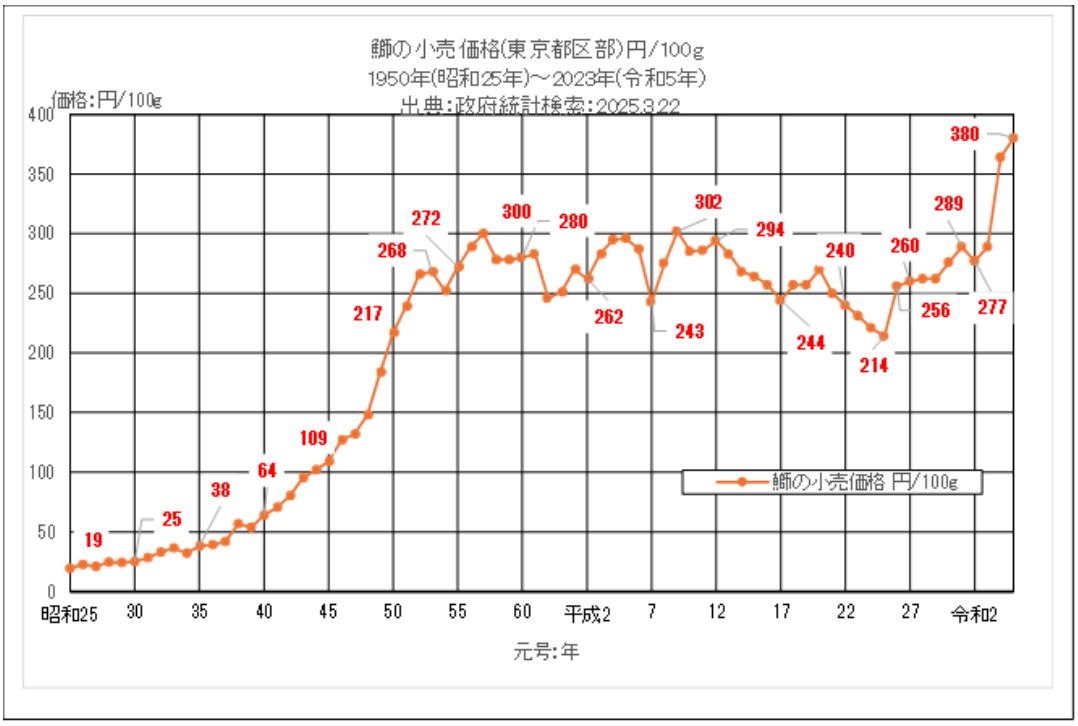

図１　筆者作成

（１）鰤の小売価格折れ線の特徴

①直近４年間の令和２年(2020 年)以降の折れ線に注目しよう。折れ線は烏賊(いか)や蛸(たこ)と同様に急上昇です。その伸びを計算すると、

・上昇率は 34.3 円/100ｇ　　((380-277)/3＝34.3…)

です。当該期間では毎年 34.5 円/100ｇの値上がりです。この値上がりには、もちろん、伏線があるでしょう。もう少し遡ってみましょう。

②直近 12 年の平成 25 年(2013 年)以降の右上がり小売価格折れ線に注目すると、平成 25 年(2013 年)の 214 円/100ｇが翌年には 256 年/100ｇになり、さらに５年後の令和元年(2019 年)には 289 円/100ｇ、そして令和５年(2023 年)には半世紀の最大値 380 円/100ｇに上るのです。すなわち、

・直近 12 年間で鰤の小売価格は 214 円から 380 円への 166 円の値上がりで、1.78 倍(380÷214=1.775…)

ということです。この値上がり現象は図 1 の折れ線の全体像で捉えてみましょう。

③折れ線のカタチは３区分

㋐昭和 25 年(1950 年)以降から昭和 57 年(1982 年)までは上昇傾向

㋑昭和 57 年(1982 年)を超えて平成 25 年(2013 年)まで 243～302 円/100ｇの範囲の上昇と下降の繰り返しの波形

㋒平成 25 年(2013 年)を超えて令和５年(2023 年)まで急激な上昇

このように折れ線全体は 3 区分されることから前述の(１)①②の値上がり現象は特別であると見做せるでしょう。

３　鰤と烏賊の小売価格年次別比較

では、鰤の小売価格折れ線全体の４区分特徴は他の魚介類と比較して違いがあるのでしょうか。前回に扱っている烏賊を例にしましょう。これは図２です。

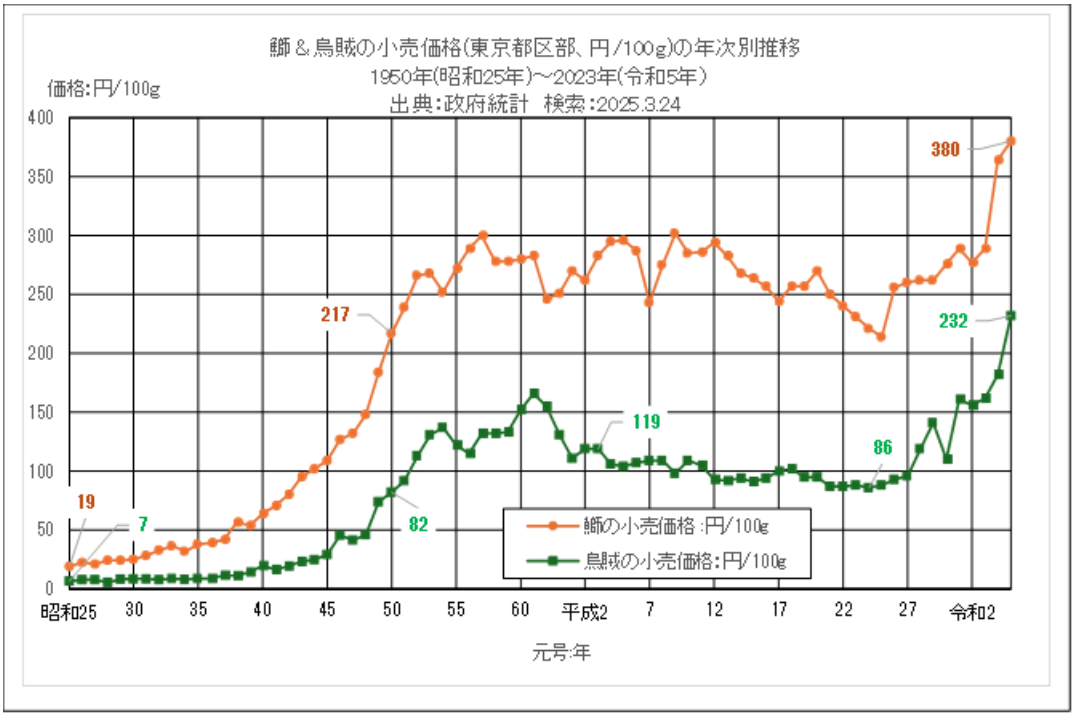

図２　筆者作成

（１）鰤と烏賊の折れ線の共通な特徴

①折れ線のカタチは次の３区分で類似している

・昭和の時代はやや急な右上がり

・平成時代は一定幅(鰤:50 円、烏賊:40 円)の波形

・令和時代は鰤と烏賊ともに急な右上がり――ここに注目！

②最大値＆最小値が共通年

・最大値は共に令和５年(2023 年)――鰤:380 円、烏賊:232 円

・最小値は共に昭和 63 年(1988 年)――鰤:19 円、烏賊:7 円

表１　筆者作成

鰤と烏賊の小売価格の差と年数 差異の幅で区分：円/100ｇ 出典：政府統計　検索：2025.3.22			
以上、未満	昭和 25～60 年	平成元～30 年	令和元～5 年
200～210		2	
190～200		2	
180～190		3	1
170～180	1	4	
160～170	1	8	
150～160	2	3	
140～150	3	4	1
130～140	2	2	
120～130	2	2	3
合計	11	30	5

（２）鰤と烏賊の小売価格の差異

図２から眼に飛び込んでくるのは鰤と烏賊との小売価格の差異でしょう。とりわけ差幅の大きいのは昭和 50 年頃からでしょう。ここで、小売格差が 120 円以上の年数をまとめると表１です。表１から差異の幅が 160 円/100ｇ以上は、令和時代が１か年、昭和年代が２か年で平成年代が 19 か年であることから、差異幅が拡大しているのは平成年に入ってから増加していることが裏付けられるでしょう。

４　鰤類漁獲数量年次別推移

次に、小売価格の上昇や下降は漁獲数量にかかわるのでしょうか。そこで鰤の漁獲量の年次別推移を見ましょう。これは図３です。

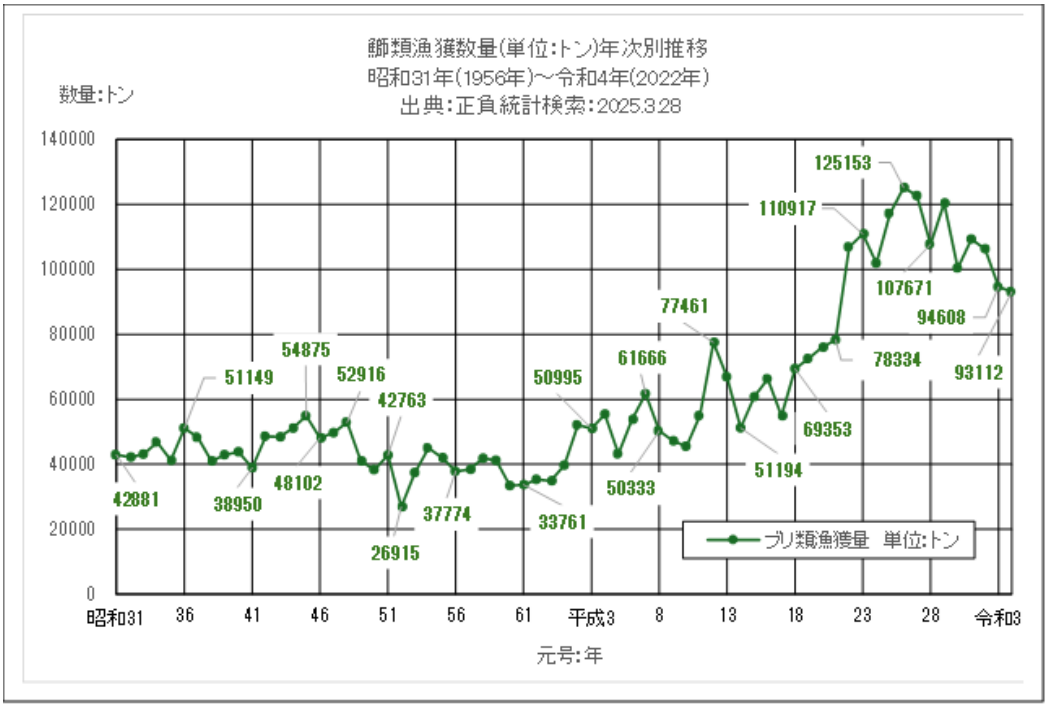

図３　筆者作成

（１）鰤の漁獲折れ線の特徴

①最大値 125153 トン（平成 26 年、2014 年）

・一人当たり 984ｇ

（当該人口は、127.2 百万人、$125153\times10^6\div(127.2\times10^6)=983.90\cdots$）

②最小値 26915 トン（昭和 51 年、1976 年）

・一人当たり 1087ｇ

（当該人口は、113.094 百万人、$125153\times10^6\div(113.094\times10^6)=1086.83\cdots$）

③折れ線のカタチは昭和 61 年（1986 年）と平成 26 年（2014 年）を境に 3 区分される

・昭和 31 年（1956 年）以降から昭和 61 年（1986 年）まで 4 万～6 万トンの間の上昇下降の繰り返しで波状傾向

・昭和 61 年（1986 年）を超えて平成 26 年（2014 年）まで上昇率の異なる二つの上昇傾向

・平成 26 年（2014 年）を超えて令和 4 年（2022 年）まで下降傾向

この下降傾向は、小売価格に影響しているのでしょう

（２）昭和 61 年（1986 年）を超えて平成 26 年（2014 年）までの上昇率の異なる二つの上昇傾向の数値化

当該期間の折れ線は 2 本の直線で近似することができるでしょう。定規を使って 2 本の直線を引くと、次の 2 点をそれぞれ通るのが最適でしょう。

・近似直線①は昭和 61 年（1986 年、点 A）と平成 21 年（2009 年、点 B）の 2 点を通る

・近似直線②は平成 21 年（2009 年、点 B）と平成 26 年（2014 年、点 C）の 2 点を通る

この 3 点を生かして２本の近似直線の傾きを数値で表しましょう。このために、図 3 の量対応画面を数対応 x－y 座標平面に次の㋐㋑に従って変換します。

㋐横軸を x 軸とし、スタートの昭和 31 年を数 1 とし、単位の年を数 1 とする

㋑縦軸を y 軸とし、スタートの 0 トンを数 0 とし、単位のトンを数 1 とする

この変換で生まれる数対応 x－y 座標平面は図４です。

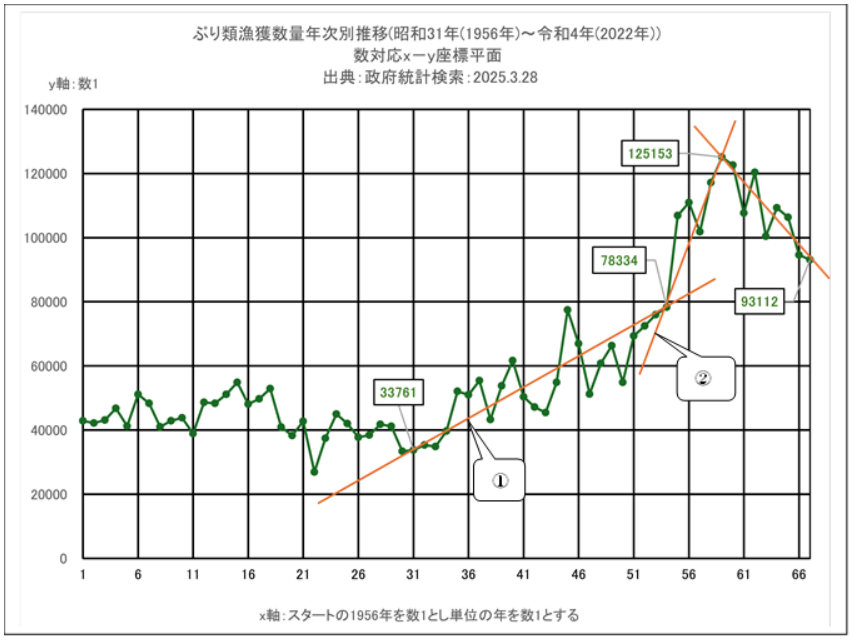

図４　筆者作成

続いて、x-y 座標平面上で直線①及び②を求めると直線①では、2 点の x 座標が数 31（昭和 61 年、1986 年）と数 54（平成 21 年、2009 年）、また直線②では数 54（平成 21 年、2009 年）と数 59（平成 26 年、2014 年）ですから、点Ａ(31, 33761)、点Ｂ(54, 78334)、点Ｃ(59, 125153)でしょう。
したがって、直線①②のそれぞれの傾きをmAB、mBC とすると、

$$mAB=\frac{78334-33761}{54-31}=1937.95\cdots \quad 、\quad mBC=\frac{125153-78334}{59-54}=9363.8\cdots$$

となるでしょう。すなわち、
・昭和 61 年(1986 年)を超えて平成 21 年(2009 年)までの当該期間では毎年 1938 トンの増量
・平成 21 年(2009 年)を超えて平成 26 年(2014 年)までの当該期間では毎年 9864 トンの増量
というように数値化されるでしょう。前者に比較して後者の伸びのすごさが先頭数字の 1 と 9 の違いで意味づけられるでしょう。
（３）平成 26 年(2014 年)を超えて令和 4 年(2022 年)まで下降傾向
　図 4 の x－y 座標平面上での当該期間の折れ線に近似する直線を求めると 2 点Ｃ(59, 125153)、Ｄ(67,93112) を通るのが最適。したがって直線ＣＤの傾きをmCD とすると、

$$mCD=\frac{93112-125153}{67-59}=-4005.125$$

となりますから当該期間では毎年のように 4005 トン減になるでしょう。
（４）漁獲量と小売価格とのかかわり
　ここでは平成 21 年(2009 年)以降に目を向けると、
・漁獲数量は平成 26 年(2014 年)まで急上昇でこの年を超えて急降下で令和 4 年(2022 年)
・小売価格は平成 25 年(2013 年)まで下降で翌年(平成 26 年)に反転の上昇そして昇そして令和 3 年(2021 年)にも急上昇
ですから、
・漁獲量の減少が小売価格の上昇につながっている
といえるでしょう。

５　鰤の消費数量

　いま鰤はどの程度に食べているのでしょうか。政府統計・家計調査の「二人以上世帯」の消費数量及び消費金額は公表されていますが一人当たりはありません。けれども「二人以上世帯」の構成員人数の平均が政府統計として公表されていますから、この二つのデータを生かすと、
　・鰤の年間一人当たりの数量の算出可能
です。また、当該年の人口数を生かすと、
　・鰤の国内消費数量の算出も可能
です。ここでは平成 22 年(2010 年)以降から令和 5 年(2023 年)までの一人当たり消費数量及び国内消費数量を紹介しましょう。これは表 2 です。

表２　筆者作成

鰤(ぶり)の国内消費数量の年次別推移の算出
平成 22 年(2010)～令和 5 年(2023 年)
出典:政府・家計調査　検索：2025.3.11

元号:年	西暦:年	「二人以上の世帯」の消費量		二人以上の世帯の構成員数	一人当たりの消費数量:g	人口数:百万人	国内消費数量:トン
		数量:g	金額:円				
22	2010	2092	2494	3.09	677.0	128.0	86658.9
23	2011	2147	2374	3.08	697.1	127.8	89086.6
24	2012	2127	2288	3.07	692.8	127.5	88336.3
25	2013	2169	2347	3.05	711.1	127.4	90600.2
26	2014	1940	2250	3.03	640.3	127.2	81441.6
27	2015	1963	2338	3.02	650.0	127.0	82550.0
28	2016	1836	2075	2.99	614.0	127.0	77983.9
29	2017	1873	1867	2.98	628.5	126.9	79759.6
30	2018	1617	1770	2.98	542.6	126.7	68749.6
R1	2019	1536	1747	2.97	517.2	126.5	65422.2
R2	2020	1737	1928	2.95	588.8	126.1	74249.4
R3	2021	1620	1833	2.93	552.9	125.5	69389.1
R4	2022	1355	1860	2.91	465.6	124.9	58157.9
R5	2023	1307	1679	2.90	450.7	124.3	56020.7

（１）鰤は食べなくなっている！
表 1 の 6 列目を見ると、平成 22 年(2010 年)以降から令和 5 年(2023 年)までの 14 年間では、
・一人当たりの消費量は当該期間の平成 22 年(2010 年)から上昇して
・平成 25 年(2013 年)のピークの最大値 711.1 グラム
・この年を超えて下降して
・令和 5 年(2023 年)では当該期間の最小値 450 グラム
です。この事実から鰤は食べなくなってきているといえるでしょう。
（２）鰤の消費量と小売価格及び漁獲数量との連関
表 2 の 6 列目の数値変動は、小売価格や漁獲数量などに重ねてみると類似しているでしょう。つまり、鰤の消費数量は小売価格や漁獲量に大きく影響されているといえるでしょう。

６　鰤の需要と供給

では、鰤は安心して食べられるのでしょうか。そこで収穫数量と消費数量を比較すると、
　・令和 4 年(2022 年)の漁獲数量は、93112 トン
　・令和 4 年(2022 年)の国内消費数量は、58158 トン
です。したがって、需要と供給にバランスは良好でしょう。
以上

(2025.5.1・岡部)

※掲載文の無断転載を禁じます。
☆ご意見、ご感想をお寄せ下さい。⇒Mail

４．「知的好奇心のヒント――数値文化を考える」から抜粋紹介
６．算数と数学はどこが違うの？
～暑中お見舞いから　★―・・・

★2010 年 7 月 1 日刊行の上記タイトルの本は、当メールマガジン第 1 号から 16 号までの掲載文をまとめた生活数学シリーズ本・別冊第 1 号です。今読んでも新鮮さを失っておらず、あらためて、生活数学普及活動のスタート地点に立ち返り掲載させていただきます。

❖―❖―❖―❖―❖―❖―❖―❖

❦ はじめに ❦

世の中もインターネット時代になって、送受信希望者が世界のどこに住んでいても、自宅から自分の思っていることをメールで発信することも受信することも出来る。しかも受信者からの返信メールで自分の思いへの共感や意見、批判も直に頂く事が出来る。このやり取りが瞬時に出来るのも素晴しい。

こんな素晴しい情報通信機器を使うことは、新しい文化、新しい芸術の創造をもたらす。そうした情報通信機器を使って私も、皆さんと共に、いま提唱している「生活数学」を考えてみたいという決意をしました。もちろん情報機器の使い方や、発信操作の分からない僕ですから、サポートしてくれる女房役を引き受けてくれる人が居なければ出来ない。

幸いにも、私が書いている「生活数学シリーズ」の刊行を手がけていただいているヨーコインターナショナル代表の前田洋子さんが女房役を引き受けてくださることになりました。

こうしたいきさつから、『「生活数学」情報通信』を始めることにしました。どうぞよろしくお願いします。(2009.3.12)

※ １．スイカ（suica）カードの普及と心配(当メルマガ第 1 号)（平成 21 年 3 月 18 日発信)／２．３月１４日という日を忘れない！（同第 2 号)（平成 21 年 4 月 1 日発信）／３．福澤諭吉のこと…「萬國政表」～講演会案内から（同第 3 号)（平成 21 年 4 月 15 日発信）／４．数値が一人歩きをしている！(同第 4 号)（平成 21 年 5 月 1 日発信）／５．環境にやさしいハイブリッド車に目を向けると――保有台数は指数関数のグラフのような伸びであった！（同第 5 号)（平成 21 年 6 月 1 日発信)／６．「レシートの生活数学」へ、その誘い（同第 6 号)（平成 21 年 7 月 1 日発信）／(以上、前号)

❖―❖―❖―❖―❖―❖―❖―❖

７．算数と数学はどこが違うの？

７月に入って、まだ梅雨の季節ですが、それでもときどき晴れ間が見られると、30 度を超える暑さです。暑い中でも、さらに気持ちが暑くなるのは、学校に通う児童・生徒にとっては期末試験でしょう。また先生方にしては、作問で苦労して暑くなるのでしょうか。

最近、講演会で「算数と数学はどこが違うのでしょうか」という質問が出ます。結論は、「算数も数学です」という事ですが、あえて違いを言うとなると、学習指導要領で「文字」の学習が中学校からという制限があることから違いが生まれ、「数」を文字で表現するか否かで、その違いが出てくるという事

でしょう。このようにお答えをしていますが、なかなか分かりにくいようです。そこで、暑中見舞と言うことで、最近、小学校４年生に解かせるような算数の「穴埋め問題」に出合いましたので、全く同じ問題を提示することは出来ませんから、少し変えましたが、この「穴埋め問題」で算数と数学の違いを考えてみていただきたいという提案です。ご感想をお待ちしています。

【問題文】　次の四角に適する数を埋めなさい。

(83 ― 4 × [　]) ×8＝248

この問題を小学校４年生ですとどのように解くのでしょうか。多分、次のように解くのでしょう。

【問題文解答プロセス】　両辺を８で割ると、83―4 ×[　]＝31

となります。

続いて、83 から 31 を引くと、次のようになります。

【問題文解答プロセス】

4 ×[　]＝52

したがって、

【問題文解答】

[　]＝13

となります。この解答過程を見ると、左辺の括弧をいかに外すかですが、小学校４年生にとってはつまずく所でしょう。「ある数に８をかけて、２４８になる数を求める」という事が、分かればよいのですが、ここがポイントでしょう。括弧で括ってある対象を「数」として認識できなければならないからです。これが「数」として認識できれば、「ある数」という表現が使えます。この認識には、四則演算の結果も「数」であるという事を含みます。

しかもここで注意したい事は、小学校４年生ですから、「数」は自然数（１、２、３、・・・）の範囲です。この自然数の範囲での数認識になります。はたして、[　]を「数」として捉えることが出来るのでしょうか。こうした疑問が出てきます。そこで、作問では

「[　]は数を表します」とはじめに書いておくことになるでしょう。

さて、この問題を、いま算数で解いたのですが、中学校に入学すると、「数」を文字ｘ、ｙなどで表現する事を学びますから、[　]を「文字」に置き換えます。すると、この問題は次のような「方程式」となります。

【問題文の変形】　(83―4 ×X)×8＝248

この方程式を解くには、いま算数で解いた様に解いても構いませんが、文字式の性質や等号の性質を使って解くという事になると、分配法則を使って、左辺は次のようになります。

【左辺の変形】　83 ×8―4 ×X ×8

そこで、文字式の性質から、左辺は 664-32X となって、次のような方程式に変わります。

【問題文解答プロセス】　664―32X＝248

32X＝664―248

32X＝416

ゆえに

X ＝13

このように見てくると、小学校４年生に出題された「穴埋め問題」は、中学校１年生に出題するとなると「方程式を解く問題」になります。

さて、「穴埋め問題」と「方程式を解く問題」とでは、どこがどのように異なるのでしょうか。暑い日の一日の暇の時間に考えてみて下さい。

（2009.7.8）

❖—❖—❖—❖—❖—❖—❖—❖

◇算数と数学の違いが話題になるのは必然なのです。実は、この疑問が生まれるようになったのは、学校数学(小・中・高校)の歴史がかかわっているのです。明治・大正・昭和の初期の学校数学科目は「分科主義」といわれ、算術・代数・幾何・三角法・解析などに科目がわかれていました。小学校では、算術、中学校に入ると算術・代数というようになっていました。ところが、戦後になって、分科主義をやめて融合主義となり、小学校は算数、中学校から数学(たとえば、数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、など)となったのですね。いま改めて読み返すと、ここまで書くべきだったのかもしれません。(岡部進)

☆ご意見、ご感想をお寄せ下さい。⇒Mail

６．著書及び新刊本紹介　★———・・・・・

（税込表示価格:税 10%）

【最新刊】2025 年 5 月 17 日刊行予定

「豊かな食材文化の日本

——農水産物の生産と消費の半世紀」

（続・生活数学シリーズ№6）

ISBN978-4-9905889-8-4　四六判　234 頁　定価 2,200 円

●＝(続・生活数学シリーズ別冊№2)〈2023 年 12 月 26 日刊行〉

「近隣諸国から輸入する農水産物の品目・数量・金額の半世紀の足跡を辿る」

——生活数学セッション講演（令和 4 年 4 月～令和 5 年 8 月）「数値文化の近未来 98～115(通算 133～150)をもとに——」

ISBN978-4-9905889-7-7(B5 判 138 頁 1,100 円)

【続・生活数学シリーズ№1～5】

●＝「数学史から十話」(2022 年 11 月 21 日刊行) ●＝「明日への生活数学」(2021 年 3 月 1 日刊行) ●＝「江戸時代の文化思想として　関孝和の「三部抄」を読む」●＝「数値文化論」

●＝茶の間に対数目盛　3.11 震災に学ぶ

【その他の著書】

※「生活数学シリーズ本(№1～№10)」のなかから；●＝「洋算」摂取の時代を見つめる

７．今日のワンポイント　★————・・・・・・・

【　スマホ文化の行方　】

最近、7 人掛けワンシート座席の対面型電車に乗って郊外から都心に向かう

機会が多く、また出来るだけ座ることにしているので向かい側に座っている人々の振る舞いが目に飛び込んできます。しかし見ていると座席の人はこちらを向くこともなく、もっぱら目の先はスマホなのです。スマホを見る(読むという表現もあるけれど)のは飽きないらしい。

こうした光景はほぼ定着していますが、稀にスマホを持っていないのか取り出さないのか紙文化に触れている人に出会います。触れているのは新聞よりも文庫か新書サイズの書物です。もちろん漫画本も含まれているでしょう。

ところがスマホから離れて紙文化に目を向けている人は、僅かであるが故か、走行中の車内での雰囲気ではアンチ・スマホ者に見え、同時にスマホ文化の再考を促しているように見えるのです。それほど今はスマホが生活慣習や日常行動に深く浸透しているのでしょう。

いまや、スマホ文化の行方を追いかけることが時代の要請なのかもしれません。　　(2025.5.1.岡部 進)

(セネシオ エンジェルウイングス　2025.5.1.　撮影：前田洋子)

８．編集後記

五月晴れ　虫の出番と　なりにけり
米糠の　匂いが残る　筍を料る
ホタルイカ　季節を味わう　夕餉(げ)かな

裏の遊歩道はつつじが満開です。あでやかな赤紫色が華やかで、見るだけでぜいたくな気分にさせてくれます。いろいろな花を楽しめる良い季節になりました。

写経に通っているお寺で、入学試験にあたる禅宗の入門試験の話を聞く機会がありました。受験勉強というものを固定観念で考えていた事に気付かされ、入学試験がなかった時代もあった事など、歴史を振り返り調べてみたり。またひとつ学びがありました。

そして、5月と言えば大型連休。毎年の事ながら観光地等の賑わいをテレビ

で盛んに取り上げていますが、私どもは、次なる出版本の校正等で日夜明け暮れています。大谷翔平さんが子育てで寝不足だけれど幸せな寝不足と語ったという事ですが、私達にとって旅行等はお預けだけれど、楽しい本作りという訳です。続・生活数学シリーズ本の第 6 冊目。17 日刊行となります。宜しくお願いします。

（岡部（前田）洋子）

——◎——★——◎——★★——◎——★——◎——

・・・最後までお読み頂きましてありがとうございます・・・

——◎——★——◎——★★——◎——★——◎——

■このメールマガジンは、主に岡部進及びヨーコインターナショナル（岡部（前田）洋子）に何らかのご縁があって名刺交換等をさせて頂きました方々、あるいは購読を希望され申込をされた方々に、お送りしています。

■配信停止やメールアドレス変更の連絡は⇒Mail　■ご意見、感想文、岡部進へのメッセージなどは⇒Mail　■セッションや本に関する情報を別途不定期で発信する場合があります。ご了承ください。　■掲載文の無断転載を禁じます。

——◎——★——◎——★★——◎——★——◎——

※・・・岡部進の生活数学を街一杯に・・・※　　※・・・アートの輪・人の輪をライフワークに・・・※

企画・運営　ヨーコインターナショナル　岡部洋子

——◎——★——◎——★★——◎——★——◎——

講演会【返信】フォーマット

■５／２７の生活数学セッション

□セッション　と　□　懇親会に参加します。

□ご氏名：　　□電話番号：

□ご同伴者：　　□（あれば）コメント：

※会費：セッション 1500 円(学割有り)　懇親会：2 階カフェにて茶話会

※会場：麹町高善ビル　会議室　　〒102-0083　千代田区麹町 4-8

※アクセス：東京メトロ有楽町線麹町駅 4 番出口を出て左、ひとつ目の信号を左、約 100 m．先左手。(地図：http://www.zen-harmonic.com/info.html)

※オペラ喫茶主催の音楽会が、同じ麹町高善ビル 2 階のカフェで開催されます。是非、ご参加ください。申込み及び問合わせは、オペラ喫茶まで。

「きらめく名曲の世界　オペラとミュージカルの歌手とともに
ステキな休日を」

◇５月１８日（日）午後１２：３０開場　午後１：００開演

◇会場：麹町カフェ　ゼン　マリーナ

案内パンフレット⇒http://www.yo-club.com/20250518.pdf